

年 頭 所 感

大 井 利 夫
上都賀総合病院 名誉院長
診療情報管理士委員会委員長

新年明けまして、おめでとうございます。

2005年が、皆様にとって良い年でありますようにお祈り申し上げます。

昨年4月、山本前委員長の後を受け、情報管理士教育委員会委員長を拝命して8ヶ月が経過しました。昨年は、オリンピックに熱狂した夏が過ぎ、相次いで上陸した大型台風、さらに新潟中越地震と自然の災害に苦しんだ年でもありました。被害に遭われた皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早く災害から立ち直られますことを願ってやみません。

診療情報管理士の教育・認定活動は、その間、多くの関係者のご協力を得て順調に経過し、昨年は1949名の方々に認定証を授与することが出来ました。受講生も約7000名に達しています。関連する日本診療録管理学会でも、9月に千葉にて30周年記念式典を挙行、さらに厚生労働省の依頼を受けてICD10のグレードアップに協力するなど、相応の成果を積み重ねてきました。これも診療情報管理士をめぐる医療界の環境が整備され、期待が高まってきている証左と言えるかも知れません。大変喜ばしいことと思うとともに、責任の重さを痛感しています。

本年は、来年に迫った健康保険診療報酬と介護保険制度の同時改定に対する基盤整備や混合診療・株式会社医業参入問題、さらに医療法改定など、医療の根幹にかかわる方向が論議決定される重要な年になると予想されています。「個人情報保護法」も4月から施行されます。医療界はどのように変わのでしょうか。診療情報管理に携わる者にとっても、大きな転機を迎える可能性が予感されます。

平成17年度から、診療情報管理士通信教育の方法も、スクーリング開催会場増加やレポート提出方法など受講生にとって勉強しやすくなるように変更されますし、進級試験や認定試験方法の検討にも着手しました。資格認定後の生涯教育もさらに充実し、「診療情報管理士指導者」制度を4月から発足するなど、質の向上とともに、診療情報管理士業務の充実標準化・社会的地位の向上にも努めていくことが企画されています。

DPCへの対応、個人情報保護管理、適切な疾病統計作成など、モノの管理から情報の管理へと診療情報管理士の業務は、今後益々広がり、期待されていくと思われまます。ICD問題も見逃すわけにはいかないでしょう。診療情報管理士および受講生の皆さん、皆さんの前途は洋々です。社会の期待に応えて、着実に歩み続けるよう頑張ろうではありませんか。